

# 日本道德教育学会神奈川支部 第40回学習会（2月24日）

## 提案①「個の育つ道德科の授業～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～」

東京都足立区立足立小学校教諭 杉本 遼 会員

### ○提案について

- ・現在の自分に取り組んでいる実践を紹介

### ○2023年にやってきたこと

- ・楽しい授業を創るQの仕掛け
- ・内容項目のキーワード
- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ・「問い力」のファシリテート術
- ・発問の組み立て
- ・倫理学に基づく道德科授業の単元化…など

### ○現在の課題意識

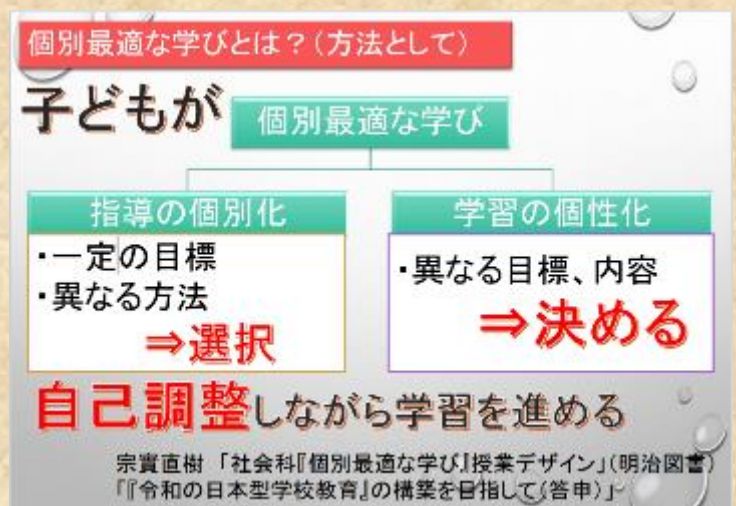
- ・上田薫先生、築地久子先生が実現しようとした個を生かす授業を実現させたい
- ・授業評価、個の学び・個の成長に注目してよい授業かどうかを判断したい
- ・個を理解し育つ姿を見取りたい

### ○個別最適な学びと協働的な学びをどんな文脈で実現していくか

- ・2つの学びの一体的な充実を図る
- ・個別最適な学びは目的でも手法でもなく「授業観」である。今までの授業観の転換を図りたい

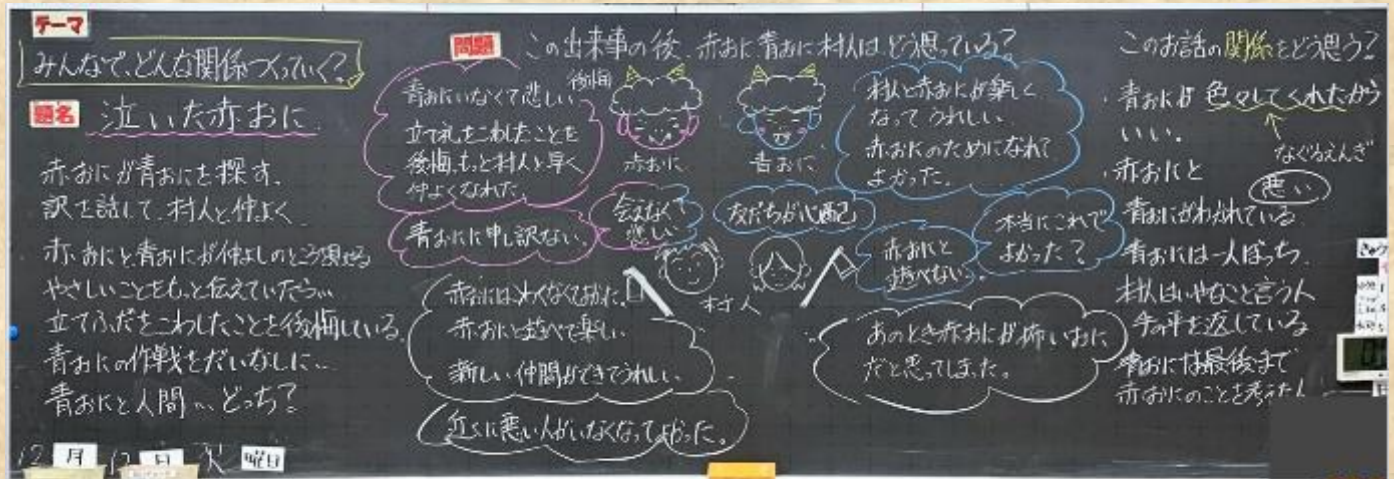
### ○個別最適な学びについて

- ・指導の個別化→目標、方法を選択できる
- ・学習の個性化→異なる内容や目標を決める
- ・一斉授業の場合、同一の課題、時間、教材、結論になってしまいがちである
- ・それだと道德は納得解はずなのにどの子も同じような結論になってしまう
- ・教師がこの「同一」をゆるめ、子供に委ねていけないか



## ○実践例の紹介

- ・「泣いた赤鬼」の教材を Padlet を使って非同期で意見交流した
- ・課題や考える時間を子どもに委ねてみた
- ・授業のスタート時に子どもの問いを整理
- ・気になる問いを自分で選び、自由に話す時間を与える
- ・赤鬼、青鬼、人間がそれぞれのどう思っているか、そしてその三者の関係について考える授業をした



- ・また、授業の終末に今日学んだことは内容項目のどれにあたるかを子どもたちが選ぶようにした

## ○今回授業で提案したかったこと

### 授業で提案したかったこと

- ・事前(授業前)に教材を読み、疑問に思ったことを Padlet に投稿する。
- ・その問いに対して、考えを書いておく。授業前から、Chrome を使うことで、問いについて考える。
- ・授業は個々話し合いたい問いについて、同じ問いを選んだ子と自由に話すところからスタート。
- ・展開では、全体で個々の問いを包括するような話し合いをしてほしい。
- ・ふりかえりは、Google フォームを使う。今日大事だと思った内容項目を自分で選び、「あ・き・こ」(あのね実はこんなことあった、今日こんなこと考えた、これからこうしたいと思った)を視点に入力する

## ○提案者が感じた今回の授業の改善点

- ・翌子どもたちと本時の授業を振り返り授業の改善点を分析した  
子どもたちはもっとは自由に話し合いをしたかったといていた
- ・Padlet を取り入れたことに関しては子ども反応もよかった
- ・複数の問いの中から、自分と同じの問いを選んでいる人を探しながら歩いたが、  
それよりも赤鬼と青鬼の関係についての問いに絞って、もっとシンプルに話し合えばよかった  
問いの中に赤鬼、青鬼以外の「人間の立場」も入れたので考えることが広がってしまったとも感じた
- ・個別最適な学び、協働的な学びを取り入れたいという教師の意識が強く働いてしまった
- ・ICT を活用することや子どもが問いを作り、それを選ぶことにこだわりすぎた
- ・子どもが自分の問いを選ぶことは大切だが、別々の話題で話し合うのは、ただのおしゃべりになってしまいう可能性もある
- ・自身が普段から大切にしている「教師と子どもと一緒に考えていく授業」を封印しない方がよかった
- ・『問い力』のファシリテート術』のシートを活用したことはよかった
- ・反省点を生かして子どもをどのように見取るかを考えたい

## ○上田薫先生の考え方を参考に

以下ような視点を取り入れながら、「子どもの見取り」について改めて考えてみた

### 個を生かす授業とは？

このようにひとりひとりが個性的存在として生きている限り、それを無視した授業はできないと考える。

言い換えれば、個々の子どもを深くとらえ、他の子とちがうその子の何をどうしてやるかが、その子なりに意味ある学習になるのかを明確にし、個の追求の筋道にそって個性的に変化発展させることが子どもを生かす授業であると捉えている。

『個の育つ学校』 上田薫・静岡市安東小学校 明治図書

カルテ

個々の子どもを深くとらえ

目標を子どもに  
位置付ける

その子を丸ごととらえた中で解釈を  
背景に、本時でのその子への

全体のけしき

具体的な期待や願いをもって、  
その子にそって伸ばす

座席表授業案

生き方に変化をもたらす授業をし、

評価

目標を位置付けたその子にとって本時は  
どのような意味があったかを評価する。



○Aさんを意識した授業の展開

**【学習問題】**  
なぜ、五郎は平八を宴に呼んだの？

**【導入】教材範読**

**【追発問】**  
・①頑張って働いている人にも頑張って働いていない人にも同じだけお金やほうびを渡すほうが平等？それとも、②頑張って働いている人がお金やほうびを多くもらって、頑張って働いていない人はお金やほうびは少なくしかももらえないほうが平等？

- ・この教材では、平八が働かないこと、宴に呼ばれないことの葛藤を考えさせた
- ・Aさんが自分と教材を重ね主人公に共感するのではのではと考えた

○子どもの生活との関連

- ・宿題をやってこない子、やってくる子という自分たちの生活にも置き換えて考える場面もあった
- ・子どもの宿題に対する姿勢を考え直すきっかけになった授業にもなった

○参考文献紹介

**参考文献**

- ☆加藤幸次
  - ・「個別最適な学び・協働的な学びの考え方・進め方」(黎明書房)
  - ・「個性を生かす先生」(図書文化)
  - ・「個別化・個性化教育はどこに向かうべきか」(明治図書)
  - ・「学校を開く 個性ある子どもを育てるために」(ぎょうせい)
- ☆奈須正裕
  - ・「個別最適な学びと協働的な学び」(東洋館出版)
  - ・「個別最適な学びの足場を組む。」(教育開発研究所)
- ☆宗實直樹 「社会科『個別最適な学び』授業デザイン」(明治図書)
- ☆全国教育研究所編 「個を生かす教育の実践 上・下」(ぎょうせい)
- ☆愛知県東浦町立緒川小学校 「個性化教育へのアプローチ」(明治図書)
- ☆金井達蔵 渋谷憲一 編著 「個性を生かす指導と評価」(図書文化)
- ☆今野喜清 新見謙太 編著 「個性を生かす教育」(教育出版)
- ☆水越敏行 奥田眞文 編 「個性を生かす教育」(ぎょうせい)
- ☆田沼茂紀
  - ・「問いで紡ぐ道徳科授業づくり」(東洋館出版)
  - ・「道徳科授業のつくり方 パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価」(東洋館出版)
  - ・「道徳科教育学の構想とその展開」(北樹出版)

## ○質疑応答

### 【参会者質問①】

- ・ Padlet はすぐに導入できるものか
- ・ 今回のように抽出児童を意識した授業づくりは、普段からしているものなのか

### 【提案者回答①】

- ・ Padlet は教師がグーグルアカウントを持っていればすぐに作ることができる  
教師が子どもを招待することができる
- ・ 授業づくりに関しては、抽出した A さんを集中的に攻めるという意図ではなく、A さんを中心に授業を組み立てていくことで、「色々なことを考えるきっかけがうまれていく」という意識でつくっている
- ・ その子のよい面を伸ばすという意味でも、抽出児童を意識した授業づくりは効果があるのではないか

### 【参会者質問②】

- ・ Padlet を使った意見交流はクラスのどれくらいの子が時前に参加していたか
- ・ 話の中で「作った問いにこだわりがなかった」ともあったが、子どもの反応をもう少し知りたい  
A さんをイメージした授業、その後の A さんの様子とクラスの状況を教えてほしい

### 【提案者回答②】

- ・ Padlet を家庭でやってくる子はそこまで多くなかった。初めは 3、4 人だったが、その後、朝の会でやると少しずつ書き込む子供も増えてきた、長文の教材などで取り入れると効果があるのではないか
- ・ 自分で作った問いだから、主体的に考えると思ったが、しかし、その問いを選んだ理由はそこまでなかった。何となく選んでいた児童もいた。みんなで話し合っていくことで、「こだわり」が生まれてくるのではないかと感じる
- ・ A さんとクラスの変化としては、そこまで劇的に変わってはいない。しかしこの授業の中で A さんに少し変化がみられ、ほめることができた。そこに価値があったと思っている

### 【参会者質問③】

- ・ テーマに掲げられている先生の考える「個の育つ」というイメージを教えてください
- ・ 「宿題」は集団ではなく個人の課題、教材「山びこ村の二人」の仕事は個人の課題とは少し意味合いが違うのではないか。もしかしたら「宿題」ではない生活の事例を挙げていれば、授業で迫りたかった「公正、公平」により繋がったのではないか

### 【提案者回答③】

- ・「この授業で気づきがありそうな子に焦点を当てて授業を考えていく」ことが「個の育つ」という自分のイメージだと捉えている
- ・日頃の子どもの見取り→「ある子が変わるという授業」をみんなが参加する…これを一年間継続しながら、クラスのいろいろな子どもの変容も見取っていくとよいのではないか
- ・公正、公平について平八を仲間はずれにするのは良くない、しかし、頑張っていない人も同じように受け入れてしまう時、普段から頑張っている人の気持ちにも向き合わないといけない
- ・公正、公平の授業という視点では、「宿題」以外の生活の例があったかもしれないが、教材に対して考えている子どもたちに、もう一步踏み込んで聞いてみたいという思いから今回は普段の宿題のことも聞いてみた

### 【参会者質問④】

- ・カルテをもとに「子どものねらい」を設定されていたが、これは子どもにとって目標なのか、目的なのか
- ・目標…到達しないこともある / 目的…到達が必要と捉えている。今回のねらい子どもにとっては目的と目標どちらにあたるか。また授業が上手くいかなかったと言っていたのは、カルテの見取りが違ったためか、それとも授業の展開が違ったためか教えていただきたい

### 【提案者回答④】

- ・Aさんが変わることを目指して考えた授業であり、一人に注目しカルテを作ることで、子どもに対する見方が変わることが大切だと考えている
- ・一人の児童を意識して授業をする意味で、その手立てが効果的であったと振り返ることもできる。
- ・今後もカルテをつづけていくことで、一人に対してどんな授業をすることができるかを考えることができる。自身が大切にしていることとして「一人の子どもを見取れなければ30人の子どもを見取ることもできない」と考えている。

## 提案②

### 自己の生き方について考えを深める道徳科の授業の研究

～納得解の紡ぎと、ルーブリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して～

浦安市高洲中学校教諭 田中大輔会員

#### ○自己紹介

- ・専門は理科、数学 原子分子物理学
- ・中学2年生 2学級で道徳科授業を担当

研究主題

## 自己の生き方について考えを深める 道徳科の授業の研究

～納得解の紡ぎと、ルーブリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して～

#### ○研究背景

- ・これから VUCA の時代  
答えが定まっていない問いにどう向かっていくか
- ・納得解を生み出す資質・能力
- ・自分も納得でき周囲も納得を得られる解を考える
- ・納得解＝価値観ではないか
- ・価値観の形成、自己の生き方を考える

#### 本研究では、

##### 教科教育型道徳科授業<sup>4</sup>



を通して



多様な他者と議論を  
重ねて探究し、納得解を生み出す  
**価値観形成**

納得解に照らして、  
自分自身の生き方を  
振り返る

生き方についての  
考えを深める

4 (田沼茂紀, アクティブラーニングに変える7つのアプローチ, 明治図書, 2017, pp.21-22)

6

#### 研究目標

生徒自身による学習改善を図りながら、他者の考えや価値観に触れ、議論を通す中で、納得解を紡ぎ、その納得解に照らして自分自身の生き方を振り返ることで、自己の生き方についての考えを深めること。

#### 研究仮説

- 1 他者の考えや価値観に触れ、議論を通す中で、納得解を紡ぎ、納得解に照らして、自分自身の生き方を振り返れば、自己の生き方についての考えを深めていくであろう。
- 2 複数時間を通して生徒が学習改善を図れば、納得解が紡がれ、自己の生き方についての考えを深めていくであろう。



○検証授業

・34名の中学2年生2回検証を行った

(3) 検証授業の分析と考察

量的分析

- ア 2種の尺度<sup>5,6</sup>による調査を検証前後に行い、**t検定**を通して分析する。
- イ 自己評価の推移および相関関係を分析

計量テキスト分析

- ウ 生徒のノートの内容の**テキストマインニング**を行い、変容を分析する。

質的分析

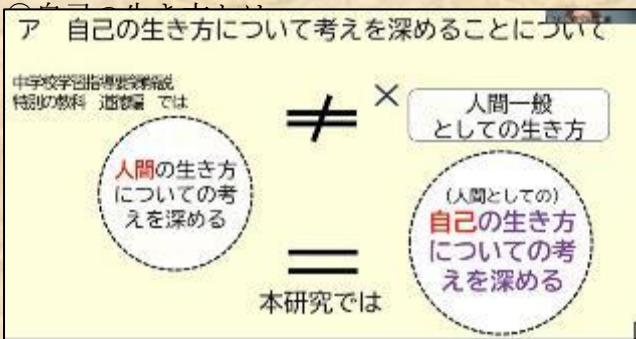
- エ 検証後に生徒の感想を基に**SCAT**<sup>7</sup> (Steps for Coding and Theorization) による分析を行う。

5「道徳学習印象尺度II」（田沼茂紀、道徳授業評価のための『道徳学習印象尺度II』の開発、道徳と教育第308・309号、2001、p.96）  
 6「主体性学習尺度」（河村明和、中学生における主体的学習態度尺度の作成、学級経営心理学研究、2020、p.31）  
 7（大谷尚、4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）、第54巻第2号、2007、pp.27-44）

○研究の具体的な内容について

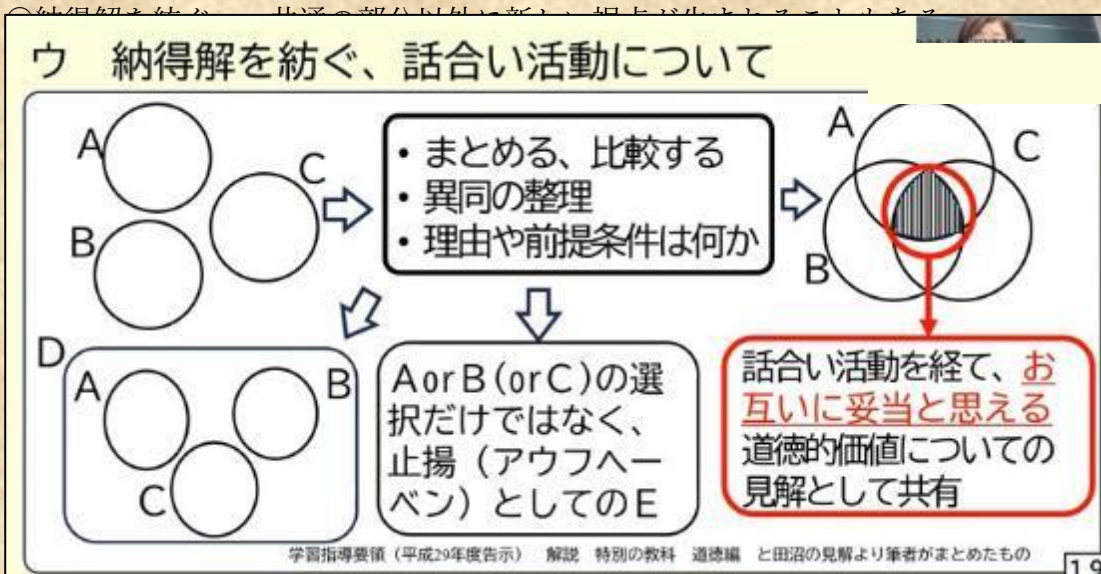
・「人間としての生き方」ではなく

人間としての「自己の生き方」を考える → 自分はどうか生きるかということ



本研究が目指す、自己の生き方について考えを深めた姿

自らの価値観を見直したり明確にしたりし、そのことを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いをもった姿



○振り返りと自己評価

- ・評価規準の明確化が必要である
- ・そこで本研究ではルーブリックを活用
- ・ポストイットモデルという形式を採用した

## オ ルーブリック (rubric) について

⇒『学生参加型ルーブリック』<sup>12)</sup>を援用

表2 『学生参加型ルーブリック』(Dannele D Stevens, Antonia J, Levi, 大学教員のためのルーブリック評価入門, 玉川大学出版部, 2014, p45) について筆者がまとめたもの

モデル	概要	学習者の関与度
提示モデル	作成の主は授業者。授業者は学習者の質問に答えるのみ。	低
フィードバックモデル	授業者が提示した後、学習者の意見によって変更する可能性がある。	↑
回収箱モデル	生徒と教師の両方に評価基準を作成する。教師が観点を示す場合もある。	
ポストイットモデル	評価観点も含めて生徒と共にルーブリックを作成する。	●
4×4モデル	授業者は生徒が作成したものの形式を整えるのみ。	↓

12 (Dannele D Stevens, Antonia J, Levi 大学教員のためのルーブリック評価入門, 玉川大学出版部, 2014, p45)

21

## ○検証授業の実際

- ・ルーブリックを生徒とつくることから始める
- ・よりよい学びをするためにはどうすればいいか生徒と話し合う

以下は生徒と先生で作成したルーブリックをまとめたもの

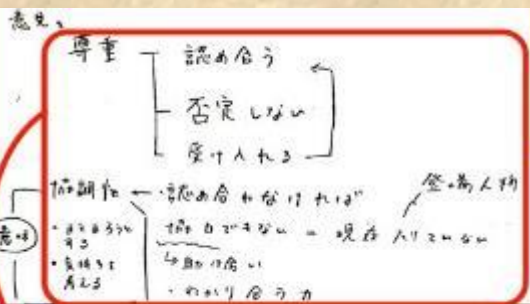
表3 生徒と共に作成したルーブリック

	I 自分との関わりに関すること	II 他者との関わりに関すること	III 生き方についての考えを深めようとする姿勢	IV グループ全体での学び
S	<input type="checkbox"/> 他者と自分の意見をまとめ、整理するような意見や質問、反論をすることができた。	<input type="checkbox"/> 発表者の話を目を見て、相づちやうなずきをしながら聞くことができた。 <input type="checkbox"/> 発表者に対して意見を引き出すような言動をとることができた(他者の意見を適切に評価することやグループ全体での成果に目を向ける)。	<input type="checkbox"/> 話し合い活動を通して、自分にとって最適な考えや自分自身が納得できるものを見出すことができた。 <input type="checkbox"/> 納得できたものを通して、自分はいかに生きていくべきか考えを深めたり、価値観の広がりを感じたりした。	<input type="checkbox"/> 話し合い活動を通して、見出されたものについて、さらによりよい考えがないか話し合いを続けた。 <input type="checkbox"/> 新しい課題や関心に基づいて話し合いがさらに続いた。 <input type="checkbox"/> 勝ち負けや言い負かすことが起こらず、質問や反論があっても互いに尊重し合う関係のまま終えることができた。
A	<input type="checkbox"/> 相手の意見と自分の意見と何が同じで何が異なるのか見つけようとした。	<input type="checkbox"/> 相手(逆)の立場や考えを尊重し、発表者の目を見て、相づちやうなずきをしながら聞くことができた。	<input type="checkbox"/> 話し合い活動を通して、自分自身が納得できるものを見出そうとした。 <input type="checkbox"/> 授業で感じたことや考えたことを通して自分はいかに生きていくべきか考えを深めようとしたり、価値観を広げようとしたりした。	<input type="checkbox"/> 話し合い活動を通して、お互いの意見の共通した部分により具体的にになったり新たな視点を見出したりすることができた。 <input type="checkbox"/> お互いの疑問や質問を基にそれぞれが納得するまで話し合いをしようとした。 <input type="checkbox"/> 質問や反論が言える雰囲気だった。
B	<input type="checkbox"/> 自分の意見を出すことができた。	<input type="checkbox"/> 発表者の話を聞くことができた。 <input type="checkbox"/> 相手(逆)の立場や考えを尊重することができなかった。	<input type="checkbox"/> 話し合い活動を通して、よりよい考えややり方について考えようとした。 <input type="checkbox"/> 関心をもったことについて考えることができた。	<input type="checkbox"/> お互いの考えの異同を比較して整理しながらまとめ、共通している部分をより具体的にしたり新しい視点を見出したりしようとした。 <input type="checkbox"/> 意見が言いやすい雰囲気だった。

生徒の「一人一人が意見を言うことが大切だ」という考えから構築

生徒の「意見を交流するためには、聞く姿勢や安心感が必要」という考えから構築

生徒の「グループ全体の雰囲気、意欲や積極性、質が必要」という考えから構築



- ・言葉を大切にしようとした。
- ・対話の中でそれぞれが使う「尊重」という言葉について、それぞれが使う真意を整理し、理解しようとした。

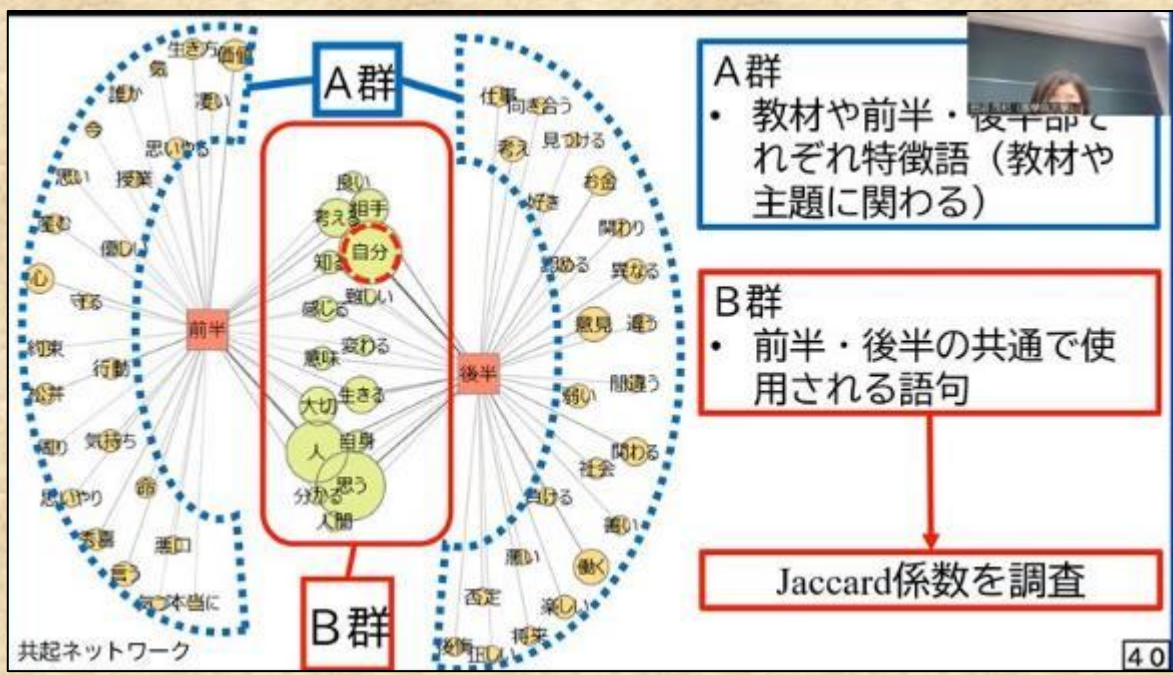
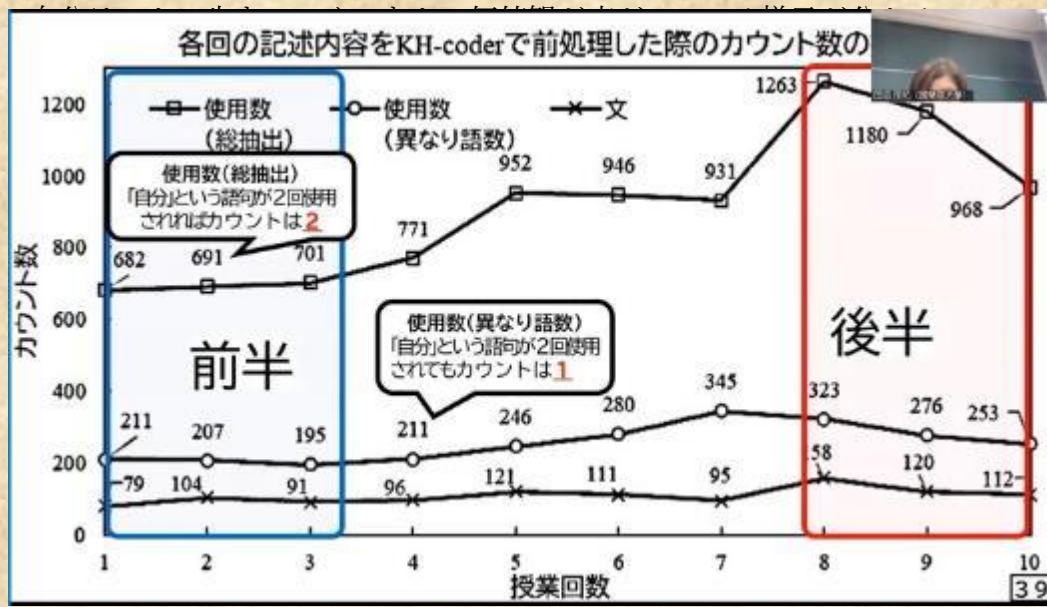
整理する中で、登場人物の心情に共感しながら自分なりの言葉で「協調する」姿勢が大切なのではないかという新しい考えに至った。

30

	(4.いつもしている 3.ときどきしている 2.あまりしていない 1.ぜんぜんしていない)	前(4月)	後(10月)	p値	有意差
I	1 新しくことを覚えるときには、自分の知っていることと結びつけて覚えるようにしている。	3.06	3.34	<b>0.005</b>	**
	2 すでに習ったことと新しく習ったことを結びつけて考えるようにしている。	3.03	3.25	<b>0.042</b>	*
	3 問題に対して自分の知識や能力を、どのように活用すればよいかを考えるようにしている(考えている)。	3.03	3.19	0.159	n.s
	4 新しく聞く情報が本当に正しいかを考えるようにしている。	2.93	3.28	<b>0.001</b>	**
	5 物事に対して見通しをもって考えるようにしている。	2.83	3.08	<b>0.035</b>	*
II	6 他の人と違う意見であっても、自分の意見を言っている。	3.27	3.48	<b>0.042</b>	*
	7 ペアやグループでの話し合い活動では、自分の意見を言うようにしている。	3.62	3.69	0.437	n.s
	8 授業などで発言する時間や場面だけでなく、自分の考えを持っている(持つようにしている)。	3.47	3.56	0.260	n.s
	9 他の人に指示されてから行うよりも、自分で決めてやろうとしている。	3.08	3.03	0.658	n.s
	10 物事に対して積極的に取り組んでいる。	3.05	3.17	0.261	n.s
III	11 友達の考えが自分の考えと違っていてもすぐに否定しないで、よさを見つけてようとしている。	3.40	3.61	<b>0.038</b>	*
	12 話し合いの場面で相手の考えを尊重するだけでなく、みんなの考えが実現するやがたを探ったり、調整したいようにしている。	3.16	3.34	0.129	n.s
	13 活動するとき、友達と協力して取り組むようにしている。	3.61	3.52	0.260	n.s
	14 みんなの意見をもとに、さらに新しいやり方や考えを創りだそうとしている。	3.10	3.42	<b>0.003</b>	**
	15 友達の見解を取り入れ、自分の考えを発展させている。	3.21	3.52	<b>0.006</b>	**

\*p<.05, \*\*p<.01(N=68,n=64)

○7回目は各項目が上昇



○検証の前半と後半で共通に使われている言葉について

・ノートの内容とテキストマイニングで回を重ねるごとに「自分」という言葉を使うようになっていく

・自分という言葉を用いるか→希望を

しめす助動詞の活用が増えている

考察

ウ 量的分析 生徒のノートの内容のテキストマイニングによる分析と考察

表9 共起ネットワーク・B群のJaccard係数の上位6語

前半					後半						
抽出語	品詞	全体	共起	Jaccard	抽出語	品詞	全体	共起	Jaccard		
1	思う	動詞	201 (0.209)	88 (0.413)	.2699	1	自分	名詞	—	118 (0.557)	<b>.4387</b>
2	人	名詞C	149 (0.155)	73 (0.343)	.2526	2	思う	動詞	—	113 (0.533)	.3767
3	自分	名詞	175 (0.182)	57 (0.268)	<b>.1722</b>	3	人	名詞C	—	76 (0.358)	.2667
4	大切	形容動詞	81 (0.084)	38 (0.178)	.1484	4	考える	動詞	—	43 (0.203)	.1727
5	考える	動詞	80 (0.083)	37 (0.174)	.1445	5	大切	形容動詞	—	43 (0.203)	.1720
6	生きる	動詞	66 (0.068)	29 (0.136)	.1160	6	生きる	動詞	—	37 (0.175)	.1535

「自分」について「関連がある」から「とても強い関連がある」<sup>16</sup>へと変化

16 (末吉美喜. テキストマイニング入門. オーム社. 2020. p.214)

41

ウ 量的分析 生徒のノートの内容のテキストマイニングによる分析と考察

表10 KH-Coder上で確認できたノートの記述内容(原文ママ)

前半	松井さんは、自分の気持ちをおさえて、相手のことを考えて生きている人。つまり、自分よりも相手を大切にできる人だと思ふし、こうした相手とのしがらみのような関係もありながら、【自分】としてどうするのが【大切】だと思った。私も松井さんのように【自分】の思いや欲望に反抗できるようになり【たい】。
後半	異なる意見の人と関わると、色々な価値観を知れたり、自分の生き方の参考になったりすることがあると思う。私は、相手を怒らせないためにその人を認めたり、尊重するのではなく、自分が仲良くしたいからそういうことをするのだと思った。興味がなかったらちゃんと相手を否定出来ると思う。しかし、仲良くしたい相手だからこそ、【自分】の価値観をぶつけることも【大切】にし【たい】。

前半・後半共に「自分」「大切」という語句に続いて「たい」という願望や希望を示す助動詞<sup>17</sup>の使用

エ 質的分析 SCAT(Steps for Coding and Theorization)による分析

- ① 道徳科の主体的な学びと自己探求を**教師のねらいと生徒の願いを基にした評価基準**を活用して自己評価し、自己調整と対話の深化、自己探求を**複数回繰り返すと**、思考の変化や独話から対話への変化だけでなく**他者から学ぶ態度、自分に引き寄せて考える意識への転換、自己意識への問いかけの増大**が生じる。
- ② 自己調整活動に対する統合化による**検証授業によって得られた多様な学び**や対話の深化を経て、**他者の価値観や考えに対する積極的な関与と受け入れをしながら**自らの考えの再構成をしていき、**他者や社会との連関性の中での納得解の獲得**をすることができる。
- ③ 自己調整活動における統合化による**自己意識への問いかけの増大**と**他者や社会との連関性の中での納得解の獲得**によって、**道徳的価値をさらに発展させていこうとする思いや願いを深めていく**ことができる。

46

## ア～エの分析と考察についての総括

① 生徒は、納得解を基に自己を振り返ることで、自己の生き方として実現していこうとする思いや願いをもつことができた。このことについて、**生徒と共に作成したループリックによって** **されていたことが明らかになった。**

② 生徒は、ループリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して、**他者と共によりよい生き方を探求する態度（ア・イ・エで考察された態度や意識）への変容が生じたことで**、納得解を紡ぎ、自己の生き方についての考えを深めることができた。

### 1 成果

① 納得解を基に自己を振り返ることで、自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができた。また、**生徒と共に作成したループリックによってこのことが更に促進された。**

② 複数時間を通してループリックを活用し、振り返り活動を重ねることで、生徒相互に思考の変化をもたらすだけでなく、**他者と共によりよい生き方を探求する態度へ変容したことにより**、納得解を紡ぎ、自己の生き方についての考えを深めることができた。

### 2 課題

① 学習改善の過程をさらに分析し、学習改善の支援策を考えていく必要がある。

② 自己の生き方について考えを深める学習の時間を十分に設けながら、振り返り活動を行う時間を生み出す工夫を検討する必要がある。

### ○質疑応答

#### 【参会者質問①】

- ・子どもとともに作るループリックのなかに「できた」という言葉が見られるが、それだと到達度評価になってしまっていないか

#### 【提案者回答①】

- ・道徳性として「できた」「できない」ではなく  
「個の学びをさらによくする」という意味で「できた」という言葉を使っている。
- ・授業の瞬間、学習過程の中の出の評価であり、子ども自身の学習改善としての評価と捉えている

#### 【参会者質問②】

- ・ループリックを通して子どもたちが自分たちを自己評価変容していくという提案だったが、振り返ったその後の次の授業のスタート時には、どのような変化があったか

#### 【提案者回答②】

- ・個人の感想になってしまうが、グループでの振り返り活動を入れたことで、子どもたちへの問いかけの質が変わった、(例えば 「その場合はどう思う?」「自分でもそう思うの?」など)
- ・相手の考えていることを推測するようになった。考え方の多様性へと認識の拡大につながった

#### 【参会者質問③】

- ・分析による子どもの変容の見取り方が大変興味深かった  
生徒の感想を軸に授業を展開していくという話があったが、ふだん、どのような教材研究、授業づくりをしているかを聞きたい

#### 【提案者回答③】

- ・年間指導計画に基づくこと、内容項目が重ならないことを意識して授業づくりをしている
- ・まず材の歴史的背景を知る
- ・読んで子どもたちがどう感じるかを考え、そこから授業を考えるようにした
- ・教師のねらいよりも、ゴールを「子どもが考えたいこと」から逆向きに考え、教師のねらいに無理がない展開になっているか意識してつくるようにした

#### 【参会者質問④】

- ・データの取捨する際、自分の予想と違うこともある。自分の予想と同じ結果だと逆に胡散臭くも感じてしまう。「自分の予想」と「データの結果」がズレた時どのように感じるか、また今回予想とズレた結果はあったか

#### 【提案者回答④】

- ・検証は、実際にやってみないとわからないものなので、常に「こうなるだろう」と思ってやっているわけではない
- ・データを見て、そこから「どうしてだろう」と考えるようにしている
- ・全ての結果に対して「なんでだろう」という疑問点を感じるようにしている

- ・データを振り返ることで、自分の足りないものや、考察をしていく
- ・違和感があるから次はこうしようというスタンスで取り組んでいる

#### 【参会者感想】

- ・今回提案のあった「個人カルテ」と「ルーブリック」は一見共通点がないように見えるがそうではない
- ・子どもの道徳学びをコントロールするのは誰か？→子ども自身である
- ・教師が教えれば価値を理解するというものではない、教師が子どもの学びの成果をどう解釈するか
- ・今回提案にあったカルテによる子どもの学びの見取り、スキュット分析など道徳における分析の仕方は一つではない
- ・価値を自覚化させるのか、価値を明確化させるか、自分自身の経験に関連付けて理解していくか、それぞれの学び方、価値の理解の仕方にも様々な方法がある
- ・今回の提案は色々なアプローチの一つだと感じる。もしルーブリックをするのであれば、どういう望ましさをメタ認知したのか、学習のゴールに対してどういう理由で、SABCいずれかの評価を子どもたちがしたかの理由付けする必要がある。
- ・小学校と中学校は子ども発達段階が違うので、改めて子供の実態によって迫り方が違うのだと感じた

**☆今年度最後の学習会でした。お二人の先生方ご提案ありがとうございました。**

**次年度も皆様とともに新しい学びについて考えていければと思います。**